

全国学力・学習状況調査の概要	
学 力 面	学 習 状 況 面
<成果> ○国語科：問題文の文脈に沿って説明の理由や意図を理解することができている。 ○算数科：全領域での正答率が県、全国と比較して高い。 ○理科：全区分・領域での正答率が県、全国と比較して高い。 ○無回答率が低い。 <課題> ▲国語科：条件に合わせて自分の考えを書くことに課題がある。 ▲算数科：記述式の回答に課題がある。	<成果> ○授業でICT機器を「ほぼ毎日」活用していると回答した児童の割合が90.2%と県、全国平均より高い。 ○課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると肯定的に回答している割合（87.8%）が県、全国平均より高い。 ○学習内容を次の学習につなげることができていると肯定的に回答している児童の割合（92.7%）が県、全国平均より高い。 <課題> ▲将来の夢や目標をもっていると肯定的に回答した児童の割合（75.6%）が県、全国平均より低い。

岡山県学力・学習状況調査の概要	
学 力 面	学 習 状 況 面
<成果> ○国語科：漢字を読むことの正答率が高い。 ○算数科：表やグラフを読み取る問題の正答率が高い。【4・5年】 <課題> ▲国語科：文章の読み取りに課題がある。 ▲国語科：文章を書くことに課題がある（構成を意識して書くこと。条件に沿って書くこと。）。 ▲算数科：四則計算の技能に課題がある。【4・5年】 ▲算数科：図形領域の正答率が低い。	<成果> ○家で自分で計画を立てて勉強していると肯定的に回答している児童の割合（89.7%）が県平均より高い。 ○授業では、自分で考え、自分から取り組んでいると感じている児童の割合（83.7%）が県平均より高い。 ○ICT機器を授業で「ほぼ毎日」使用していると回答している児童の割合が46.9%と県平均より高い。 <課題> ▲「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」の肯定的回答率（65.3%）が県平均より低い。 ▲授業の振り返りについての肯定的回答率（63.2%）が県平均より低い。

改 善 策

学 校 で の 取 組

- ① 「心マトリクス」を活用した振り返りを行うことで、自分自身についての認識を深めるとともに、未来の自分について意識することができるようになる。
- ② 「やってみよう」の合言葉を児童と共有し、児童が主体となって活動できる機会や場を設けることで、非認知能力の育成を図る。
- ③ 朝の活動の時間やモジュールタイムの中で、タブレットドリル、iプリ等を活用した漢字や計算の練習の機会を確保することで、基礎基本の定着を図る。
- ④ 全校で「けてぶれ学習法」を指導することで、児童自らの力で漢字や計算の技能習得学習に取り組めるようにする。
- ⑤ 全校で「QNK S図考法」に取り組むことで、思考力・判断力・表現力等を高めることができるようにする。
- ⑥ 単元計画を児童と共有し、単元の中に小テストを位置付けることで、児童が見通しと目標をもって主体的に学習に取り組むことができるようにする。
- ⑦ 授業の中で書く活動を重視して指導を行う。その際、教師から条件を設定し、一人一人に適切にフィードバックを行うことで、文章を書く力を高めることができるようにする。

あい・かもがた学園 で の 取 組

- カリキュラム「あい・かもがた学」に沿って、中学校区で一貫した指導を行い、基礎学力の定着、学び合い活動の充実を図り、自立した学習者を育成する。
- 「ほめ言葉のシャワー」の取組を通して、互いに認め合う温かい人間関係作りに努めるとともに自己肯定感を高めることができるようにする。
- 各校の授業参観や情報交換の機会を設け、園・小・中学校のスムーズな接続を図る。

家庭・地域へのお願い

- 学校では「けてぶれ学習法」「QNKS 図考法」を用いた学び方の指導を行っています。これらの学び方を用いて、家庭で子どもたちが自ら進んで学習に取り組むことができるよう、励ましの声掛けをお願いします。
- 家庭でのメディア使用について話し合い、メディアとよりよく付き合っていくことができるようになるためのルール作りをお願いします。
- 学習や生活等、さまざまな場面で子どもたちが「自分で選んで、自分が決めていく」ことに自信をもつことができるように、褒めて認めて励ます声掛けをお願いします。日々の様子で気付かれたことがあれば、ぜひ学校までお知らせください。